

# ドラマ「海神（ヘシン）」

ドラマ「海神（ヘシン）」（全51話）より あらすじ

新羅が朝鮮半島を統一して150年。貴族の腐敗や海賊の横行によって、新羅は次第にかげりを見せ始めていた。

そんな中、奴隷として生を受けたクンボク（後のチャン・ボゴ）は、厳しい身分制度を恨み、いつか唐へ渡って自由に生きることを夢見ていた。

次々と襲いかかる苦境を乗り越え、やがて持ち前の武術と商才を開花させたチャン・ボゴ。やがて唐・新羅・日本を股にかける「海の覇者」にのし上がっていく。

## 図書館の所蔵

『**阜（みぎわ）の民**』（**金重明著 913.6/キ**）

海上王の張保阜（チャンボゴ）の物語。遣唐使の日本人僧、**円仁**（慈覚大師）との交流も描きます。



# 「海神（ヘシン）」の世界

ドラマ「海神」は、820年代から50年代まで東アジアの海上を支配した、新羅の張保臯（チャンボゴ）を主人公とした物語です。このドラマでは、張保臯が商人や軍人として新羅・唐・日本で活躍します。まず当時の各国の情勢について説明しましょう。

- 新羅**・・・旧百済の地方で反乱が続発し、国力は次第に疲弊。837年以降、王位継承の争いが起き、張保臯が関与する。
- 唐**・・・国力は衰退し、各地で藩鎮が独立。819年、最大の藩鎮李師道が滅ぶと、唐の国力は一時的に回復する。
- 日本**・・・平安時代の初期。桓武天皇の治世末期の803年、新羅と国交を回復し、両国関係は急速に発展した。

# 「海神（ヘシン）」の世界

～ 張保臯の生涯～

ちょうほうこう

**張保臯**（別名 <sup>きゅうふく</sup>弓福：クンボク）は、8世紀  
終わり頃、新羅の身分の低い家柄に生まれました。その後、唐へ渡って活躍し、将軍にまで  
抜擢されます。

828年、新羅へ戻ると、**青海鎮大使**に任命され、**海上王**として東アジアの海を治めました。

837年、張保臯は新羅の王位争いに関与したため、朝廷から警戒され、846年に殺害されてしまいました。851年には青海鎮も廃止され、張保臯の時代は終わります。



比叡山延曆寺の「張保臯顕彰碑」  
円仁は、唐で大いに張保臯の援助を受けたため、帰国後、当寺に記念碑を建てました。

# 「海神（ヘシン）」の世界

～ 張保臯の人物関係 ～

張保臯には、弟分として<sup>ていねん</sup>鄭年（**チョンヨン**）が史料に登場します。鄭年は、泳ぎも武術も張保臯より勝れていましたが、常に張保臯を「兄貴」と呼んで従っていた、とあります。

また、張保臯を王位争いに巻き込んだのは<sup>きんゆうちょう</sup>金祐徵（**キムウジン**）という人物で、後の神武王です。

ドラマでは、これら実在の人物描写にも注目してみましょう。



『韓国歴史地図』(221.0/カ)の61頁「新羅末期の反乱図」。  
赤丸の箇所が、ドラマの舞台の青海鎮。

# 「海神（ヘシン）」の世界

～ 張保臯と日本 ～

張保臯は、日本とも積極的に交易を行い、新羅の大商人として知られました。なお、日本の史料には「張宝高」として登場します。

正倉院の宝物の中には、新羅からの舶来品で「佐波理（さはり）」と呼ばれる

しんちゅう

真鍮製の食器類があります。

平安時代初めの日本人は、張保臯たちが持ってきた多くの珍しい物品に心を奪われたことでしょう。



正倉院の「佐波理匙（さはりさじ）」  
佐波理とは、銅・錫・鉛の合金製品で、以後朝鮮半島の特産品として知られています。